

編集後記

肝移植を他臓器移植と比べた場合の特異性は、「生体肝移植が可能である」ということと、「実用化された人工肝補助装置が存在しない」ということであろう。そのため脳死移植の少ないわが国では生体肝移植が日常診療として定着した。一方、「人工肝」の研究は数十年間行われているにもかかわらず、肝機能ゼロの患者を月や年のオーダーで生命維持できる人工肝補助装置はまだ開発されていない。生体肝移植という選択肢があることは患者にとって福音であるが、実用化された人工肝補助装置が存在しない現状では、劇症肝炎などの肝不全で家族内に生体ドナーがいなければ「非常にチャンスが少ない」脳死肝移植以外では患者を救うことができない。

腎移植では生体肝移植も可能であるし、透析という人工腎補助装置によって十年以上の長期間患者は生存することができ、心移植は脳死移植しかあり得ないが、人工心補助装置の進歩がめざましく、最近では埋め込み型も登場して患者のQOLが上昇し、しかも5年生存も珍しくないという。ちなみに埋め込み型の「人工腎」はいまだに開発の見込みがたっていないようである。

わが国で施行された肝移植のうち脳死肝移植は1%に過ぎず、99%は生体肝移植である。この比率は90%以上が脳死肝移植である米国やヨーロッパ諸国とは正反対である。お隣の韓国を始めとするアジア諸国では生体肝移植のほうが多いが、それでも三分の一程度は脳死肝移植が占めており、わが国の大きく偏った比率は世界的にみて特異である。イスタンブール宣言や国際世論によって、わが国からの渡航移植が著しく制限されつつある現状も後押しして2009年7月に臓器移植法が改正され、脳死移植が増加する法的整備がなされた。しかし、施行は1年後であり、どの程度脳死移植が増加するかはまだ不透明である。現在、圧倒的に不足しているドナー側移植コーディネーターの増員など、法律以外の体制の整備も急務であると考えられている。

生体肝移植が医療として成立するためにはドナーの安全が絶対条件である。これには高度な肝切除技術が必要であることはいままでもないが、詳細な術前画像診断を基にした個々のドナーにおける肝解剖の理解や、切除容積(=グラフト容積)の正確な評価が不可欠である。一方、レシピエントの術前評価にも画像診断は重要であり、肝の解剖の評価、合併症の評価が行われている。また、レシピエント成績向上のためには血管合併症や胆管合併症の管理が重要であり、これには正確な画像診断とinterventional radiologyの技術が要求される。

本号の特集である「肝移植の画像診断—生体ドナーの安全とレシピエントの成績向上を目指して」では肝移植の最近の進歩を、画像診断の進歩と関連づけながら豊富な画像を駆使して解説している。本誌の読者で肝移植に直接かかわる方は少ないと思うが、以上に述べた肝移植における背景を理解いただけてから興味をもって本号の特集を読んでいただければ幸いである。

(国土典宏)

編集顧問

有山 襄 竹原 靖明 望月 福治

編集幹事

二村 雄次 角谷 眞澄 神澤 輝実 工藤 正俊

国土 典宏 椰野 正人 真口 宏介

山雄 健次

編集委員

朝倉 徹 跡見 裕 猪狩 功遺

石川 洋子 市川 智章 伊東 克能

乾 和郎 今井 裕 植木 敏晴

太田 哲生 岡崎 和一 梶原 建熙

兼松 雅之 川崎 誠治 蒲田 敏文

鬼島 宏 木下 壽文 木村 理

熊田 卓 小井戸一光 近藤 哲

坂元 亨宇 佐々木 洋 下瀬川 徹

須山 正文 高安 賢一 高山 忠利

竹内 和男 武田 和憲 田中 雅夫

土井隆一郎 長川 達哉 信川 文誠

長谷部 修 廣橋 伸治 本田 浩

眞栄城兼清 前谷 容 松井 修

村上 卓道 森 宣 森安 史典

柳澤 昭夫 山下 康行 山野 三紀

竜 崇正 渡辺 五朗 (五十音順)

掲載広告索引

(五十音順)

アステラス製薬(株)	1 頁
エーザイ(株)	表 2
オリンパスメディカルシステムズ(株)	9 頁
第一三共(株)	4 頁
大日本住友製薬(株)	2 頁
東芝メディカルシステムズ(株)	表 3
バイエル薬品(株)	表 4
ボストン・サイエンティフィック・ジャパン(株)	10 頁
(株)メディカル・サイエンス・インターナショナル	32 頁

肝胆膵画像(第12巻第1号)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

☎ 本誌編集室直通 (03)3817-5714 (担当)藤田・能藤

FAX (03)3815-7802・3815-7982

E-mail: gazo@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kantansui/

2010年1月15日発行(隔月15日発行)

定価3,675円(本体3,500円+税5%)

2010年々々ぎめ予約購読料21,420円(年間6冊)(送料弊社負担)

電子ジャーナル閲覧オプション付 27,900円

(税込定価・送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 (株)アイワード ☎(011)241-9341(代)

広告取扱 (株)文京メディカル ☎(03)3817-8036(代)

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. ©2010, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有いたします。
- JCOPY (株)出版者著作権管理機構 委託出版物
- 本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。